

東海地方におけるタカチホヘビ *Achalinus spinalis* の 確認記録と生息環境

西尾 和久⁽¹⁾ 川瀬 基弘⁽²⁾

⁽¹⁾ IFF 東海 〒496-0013 愛知県津島市神尾町東之割7-3

⁽²⁾ 愛知みずほ大学人間科学部 〒467-0867 愛知県名古屋市瑞穂区春敲町2-13

Records of *Achalinus spinalis* (Squamata, Xenodermatidae) from Aichi, Gifu, Mie Prefecture, central Japan and thier environments

Kazuhisa NISHIO⁽¹⁾ Motohiro KAWASE⁽²⁾

⁽¹⁾ IFF Tokai, Higashinowari 7-3, Kanno-cho, Tsushima, Aichi, 496-0013, Japan

⁽²⁾ Department of Human Science, Aichi Mizuho College, 2-13 Shunko-cho, Mizuho-ku, Nagoya, Aichi, 467-0867, Japan

Correspondence:

Motohiro KAWASE E-mail:kawase@mizuho-c.ac.jp

要旨

1998年～2015年に愛知・岐阜・三重の東海三県53地点において、タカチホヘビ *Achalinus spinalis* Peters, 1869の生息を確認した。このうち2008年の愛知県名古屋市守山区大森八龍での確認は名古屋市初記録である。

はじめに

タカチホヘビ *Achalinus spinalis* Peters, 1869は、半地中性で夜間を中心に活動するため正式な確認記録は少なく、各都府県のレッドデータブックで希少種や情報不足として扱われることが多い。

筆者らは20年以上にわたり陸産貝類の研究をしており、タカチホヘビの好適な生息環境となる森林内で調査する機会が多い。調査では、タカチホヘビが活動期の日中に休息地として利用する落葉下、倒木下、石下、投棄物下等を精査するため、タカチホヘビを発見する頻度が高く、愛知・岐阜・三重の東海三県において、現在までに53地点でタカチホヘビの生息を確認している。これらの記録の中には、名古屋市初記録となる確認が含まれており、東海三県の記録とあわせて報告する。

タカチホヘビの分布および生態

タカチホヘビ [高千穂蛇] は、爬虫綱トカゲ目 (有鱗

目) タカチホヘビ科タカチホヘビ属に属する全長30～60cmほどの小型のヘビである。日本産タカチホヘビ属は3種で、奄美諸島や沖縄諸島に分布するアマミタカチホヘビと八重山諸島に分布するヤエヤマタカチホヘビに比べて、本州、四国、九州およびその周辺島嶼に分布するタカチホヘビは国内の分布域が最も広い。また、タカチホヘビは、中国東～南部やベトナム北部にも分布するとされるが、別種の可能性も指摘されている (内山ほか, 2002; 関, 2016)。

タカチホヘビは、背正中線上に細い1本の黒線があり、他の一般的なヘビとは異なり、体表は光沢のあるビーズ状の鱗で被われる。体鱗の構造上乾燥に弱いため、主に林床が湿潤に保たれた森林内に生息し、ミミズや甲虫の幼虫等を捕食する。

調査方法、結果、文献記録

調査は基本的にタカチホヘビを対象として行わず、主

に1998年からの陸産貝類調査時に確認した記録を蓄積した（表1, 図1）。図1の位置情報については、愛知県と岐阜県は自治体が概ね西から東に並ぶように配置し、南北に並ぶ場合は北から南に配置した。三重県については自治体が北から南に並ぶように配置した。証拠標本については可能な限りホルマリン、あるいはエタノール液浸で保存するか、写真撮影を行った。

愛知県23地点（生体19地点、轢死体4地点）、岐阜県19地点（生体17地点、轢死体2地点）、三重県11地点（生体7地点、轢死体4地点）の合計53地点で生体または轢死体（ロードキル）を確認した（表1, 図1）。確認環境については、投棄物下19地点、道路上13地点、石下9地点、倒木下8地点、伐採木下2地点、堆積落葉下2地点であった。

今回報告する53地点のうち名古屋市の文献記録は次の通りである。名古屋市動植物実態調査検討会（2004, 2010）にはタカチホヘビの記録がなく、名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課（2015）ではタカチホヘビの報告は存在しないために、名古屋市レッドリストでのランク付けの対象種としない旨の記載がなされている。したがって今回報告する2008年の名古屋市での確認（守山区大森八龍2丁目；緯度35.219356, 経度136.997943, 図2）は名古屋市初記録となる。

53地点と同一自治体の中には、市町村史やレッドデータブックなど、タカチホヘビの確認記録を記載した文献（下山村, 2005；安井・浅香, 2011；加藤, 2014；鳳来町教育委員会, 2005；東栄町誌編集委員会, 1996；岐阜市自然共生部自然環境課, 2015；可児市, 2007；瑞浪市野生生物研究会, 2008；三重県農林水産部みどり共生推進課, 2015など）も存在するが、そのほとんどにおいて、確認数や確認地点数は少ない。また、愛知県岡崎市や豊田市（旧豊田市・旧小原村）のように、古い文献（新編岡崎市史編集委員会, 1985；小原村誌編集委員会, 1977；豊田市教育委員会豊田市史編さん専門委員会, 1978）にはタカチホヘビの確認記録が記載されていないが、近年になって新たに記載される自治体（岡崎市, 2014；矢部ほか, 2010；大畑, 2009）も増えている。

三重県のように、2006年発行のレッドデータブック（三重県環境森林部自然環境室, 2006）ではタカチホヘビが準絶滅危惧種に指定されているが、その後、確認地

点数が増え、2015年発行の最新版レッドデータブック（三重県農林水産部みどり共生推進課, 2015）では、低懸念（LC）として対象外になった事例もある。

考察

タカチホヘビの生息環境について、日中の調査においては表1より、投棄物、倒木・伐採木、石、堆積落葉などの自然物下や人工物下での確認が、全体の75.5%と最も多く、夜行性のタカチホヘビの生態と一致しており、文献で指摘されているように発見が困難で記録が少ないこと（佐藤・安藤, 1984；大畑, 2009；矢部ほか, 2010）と矛盾しない。道路上では13地点（全体の24.5%）で確認しているが、これらのうち10地点は夜間のロードキルと考えられる轢死体で、生体を確認した3地点はいずれも雨天時の夜間であった。このような確認状況は、本種が乾燥に弱く、主に夜間や降雨時に活動する生態を反映している。

タカチホヘビの確認数について、愛知県設楽町ではシロマダラと並んで確認比率がヘビ類中で最も少なく2.2%（合計277個体中の6個体）で、最多のヤマカガシ57.4%（合計277個体中の159個体）に比べて極めて少ない（設楽の自然調査会, 1996）。また、愛知県稲武町（現在の豊田市稲武地区）も爬虫類種別構成において、タカチホヘビはヒバカリと並んで最少の1.8%（合計328個体中の6個体）で、最多のヤマカガシ42.0%（合計328個体中の138個体）に比べて極めて少ない（稲武町教育委員会, 1996）。タカチホヘビは発見が困難な種であることから、これらの数値が実際の生息数に比例するとは限らないが、確認数が極端に少ないという特徴から、他のヘビ類に比べ、生息環境がある程度限定されることは確実である。

今回報告する1998年の愛知県日進市岩藤町大清水の記録も、名古屋市同様、日進市初記録と考えられる。近年発行された「日進市史 自然編（日進市史編集委員会, 2015a, b）」は、30年以上前に発行された「愛知県日進町誌（日進町誌編纂委員会, 1983）」まで遡って文献記録が調べられているが、タカチホヘビ確認記録の記載はない。1998年当時の日進市の確認地点周辺は、広葉樹林中心で構成された丘陵地で、希少水生昆虫のヒメタイコウチや希少淡水魚のホトケドジョウ、カワバタモロコ、

西尾・川瀬（2017） 東海地方におけるタカチホヘビ *Achalinus spinalis* の確認記録と生息環境

表1. 東海三県におけるタカチホヘビの確認記録

県		確認場所（No.は図1に対応する）	確認環境等	状態	確認年月日	写真
愛知県	1	愛知県名古屋守山区大森八龍（小幡緑地公園）	広葉樹林内の伐採木下	生体	2008/7/22	図2
	2	愛知県春日井市西尾町（弥勒山）	スギ/広葉樹林内の投棄物下	生体	2002/5/22	図3
	3	愛知県長久手市前熊一ノ井	広葉樹林内の倒木下	生体	2012/7/12	図4
	4	愛知県日進市岩藤町清水	広葉樹林内の倒木下	生体	1998/9/4	
	5	愛知県豊田市藤岡飯野町辻戸	広葉樹林内の倒木下	生体	2010/6/15	図5
	6	愛知県豊田市松平町赤原	広葉樹林に接する道路上	轢死体	2014/7/9	
	7	愛知県豊田市蘭町	スギ/広葉樹林内の投棄物下	生体	2008/10/3	
	8	愛知県岡崎市保久町	ヒノキ/広葉樹林内の投棄物下	生体	2010/10/15	
	9	愛知県岡崎市細光町	スギ/広葉樹林内の投棄物下	生体	2009/7/18	図6
	10	愛知県岡崎市東河原町	広葉樹林に接する道路上	轢死体	2009/7/19	
	11	愛知県額田郡幸田町深溝	広葉樹林内の投棄物下	生体	2012/9/22	図7
	12	愛知県豊川市長沢町梨ヶ沢	スギ/広葉樹林内の倒木下	生体	2000/7/31	
	13	愛知県豊川市千両町早稲田	スギ/広葉樹林内の投棄物下	生体	2004/7/8	図8
	14	愛知県豊橋市嵩山町	スギ/広葉樹林内の投棄物下	生体	2000/6/28	
	15	愛知県豊橋市石巻町金田（石巻山）	スギ/広葉樹林内の石下	生体	2004/5/28	図9
	16	愛知県北設楽郡設楽町清崎	広葉樹林に接する道路上(雨天時の夜間)	生体	2006/6/18	図10
	17	愛知県新城市徳定	スギ/広葉樹林内の投棄物下	生体	2004/7/8	
	18	愛知県新城市笠岩（桜淵県立自然公園）	広葉樹林に接する道路上	轢死体	2004/6/21	
	19	愛知県新城市横川	スギ/広葉樹林内の投棄物下	生体	2006/9/3	
	20	愛知県新城市有海	スギ/広葉樹林に接する道路上	轢死体	2004/9/30	
	21	愛知県新城市連合真菰	スギ林内の石下	生体	2005/7/11	
	22	愛知県新城市門谷（鳳来寺山）	広葉樹林内の倒木下	生体	2006/6/10	図11
	23	愛知県北設楽郡東栄町足込	スギ/広葉樹林に接する道路上(雨天時の夜間)	生体	2007/8/2	図12
岐阜県	24	岐阜県揖斐郡揖斐川町徳山	広葉樹林内の倒木下	生体	2000/7/19	
	25	岐阜県揖斐郡揖斐川町春日川合	スギ/広葉樹林内の石下	生体	2011/8/30	図13
	26	岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲長瀬(石山)	スギ/広葉樹林内の石下	生体	2015/9/9	
	27	岐阜県揖斐郡池田町片山	スギ/広葉樹林に接する道路上	轢死体	2002/9/7	
	28	岐阜県不破郡垂井町岩手	スギ/広葉樹林内の倒木下	生体	2013/9/9	
	29	岐阜県大垣市赤坂町（金生山）	広葉樹林内の石下	生体	2000/5/26	
	30	岐阜県養老郡養老町柏尾	スギ/広葉樹林内の石下	生体	2001/5/18	
	31	岐阜県海津市南濃町庭田	広葉樹林に接する道路上	轢死体	1999/7/1	
	32	岐阜県山県市神崎	スギ/広葉樹林に接する道路上(雨天時の夜間)	生体	2002/7/11	図14
	33	岐阜県岐阜市日野西	広葉樹林内の投棄物下	生体	2011/9/23	図15
	34	岐阜県郡上市白鳥町向小駄良	スギ/広葉樹林内の石下	生体	2006/10/12	図16
	35	岐阜県関市下有知	スギ/広葉樹林内の伐採木下	生体	2005/6/17	図17
	36	岐阜県可児市久々利下入会	広葉樹林内の投棄物下	生体	2012/9/24	図18
	37	岐阜県多治見市大針	スギ/広葉樹林内の倒木下	生体	2015/9/23	
	38	岐阜県多治見市甘原町	スギ林内の投棄物下	生体	2002/7/30	図19
	39	岐阜県下呂市馬瀬川上	スギ/広葉樹林内の石下	生体	2007/9/3	図20
	40	岐阜県加茂郡八百津町八百津	広葉樹林内の投棄物下	生体	2013/9/26	図21
	41	岐阜県瑞浪市日吉町	スギ/広葉樹林内の投棄物下	生体	2015/7/22	
	42	岐阜県中津川市坂下	スギ/広葉樹林内の投棄物下	生体	2015/7/20	図22
三重県	43	三重県いなべ市藤原町篠立	広葉樹林内の投棄物下	生体	2001/10/2	
	44	三重県いなべ市北勢町別名（藤原岳）	広葉樹林内の石下	生体	2011/9/1	図23
	45	三重県桑名市多度町力尾	広葉樹林に接する道路上	轢死体	2001/7/21	
	46	三重県四日市市黒田町	広葉樹林内の堆積落葉下	生体	2014/7/14	図24
	47	三重県亀山市安坂山町	広葉樹林に接する道路上	轢死体	2005/7/31	
	48	三重県伊賀市長田	広葉樹林内の投棄物下	生体	2003/5/30	図25
	49	三重県津市片田田中町	広葉樹林内の投棄物下	生体	2003/6/1	図26
	50	三重県松阪市飯高町森	スギ/広葉樹林に接する道路上	轢死体	2007/7/18	
	51	三重県度会郡大紀町阿曾（網掛山）	スギ/広葉樹林に接する道路上	轢死体	2009/8/31	図27
	52	三重県北牟婁郡紀北町海山区船津	広葉樹林内の堆積落葉下	生体	2011/7/9	図28
	53	三重県熊野市五郷町寺谷	スギ/広葉樹林内の投棄物下	生体	2005/9/2	図29

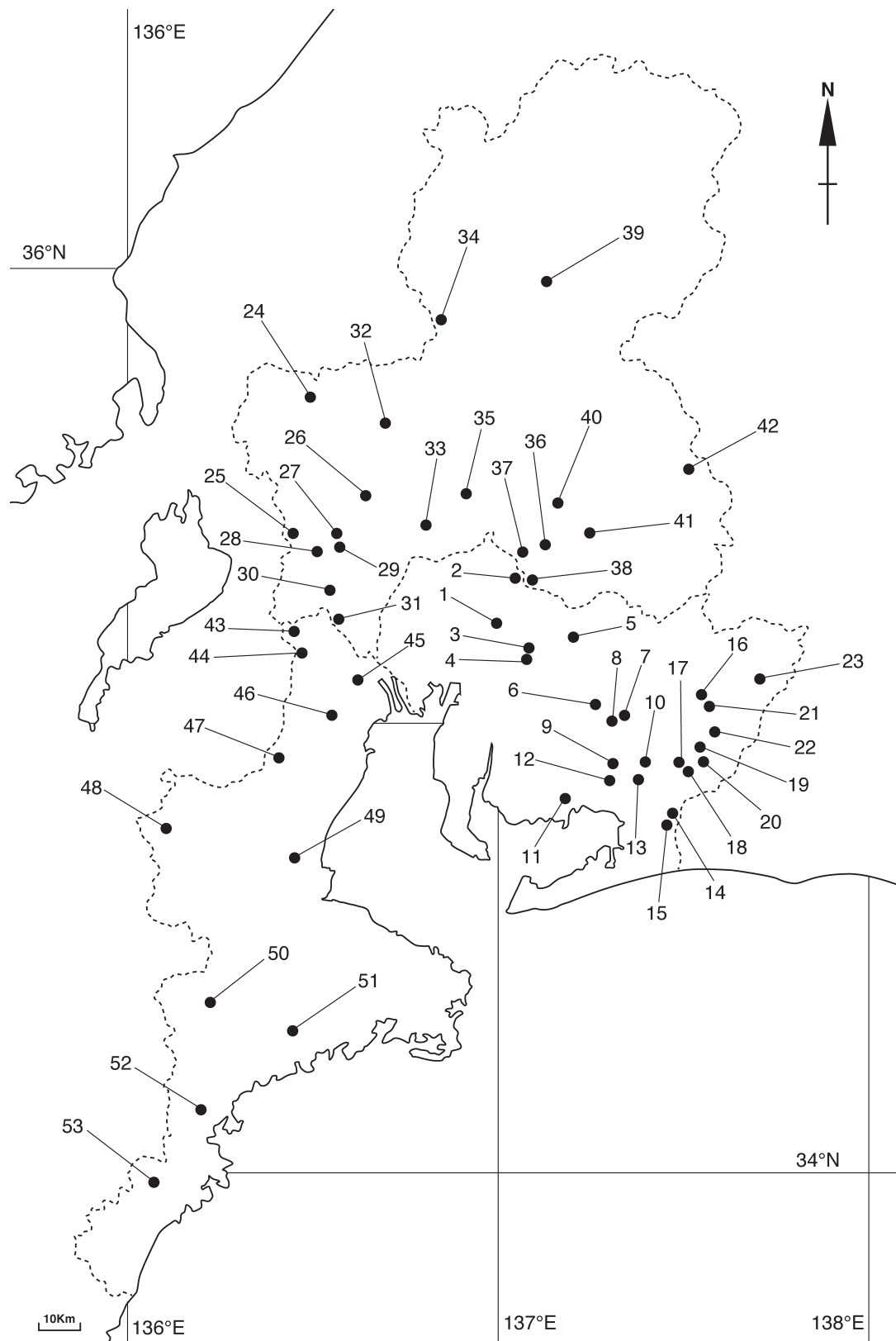


図1. 東海三県におけるタカチホヘビの確認場所

現在では他地域を含め、ほとんど確認できなくなった同じく希少淡水魚のウシモツゴなども生息し、極めて良好な自然環境が維持されていた。タカチホヘビが生息する可能性も十分に考えられる環境であったにもかかわらず、現在まで確認記録がないことは、生息数の多少に関わらず、本種の発見が困難であることを示唆している。

53地点が含まれる自治体での、タカチホヘビの文献記録の有無を全て確認することは難しいが、名古屋市や日進市以外でも、今回の報告が初記録となる自治体もあり得る。例えば、愛知県幸田町史や同県長久手町史（幸田町史編纂委員会，1974；長久手町史編さん委員会，2003a, b）にはタカチホヘビの確認記録が無く、その他の記録文献が存在しなければ、両自治体において初記録となる。また、既に確認記録がある自治体であっても、確認数が少なく、今回の記録が数例目の貴重な情報となる場合も多いと考えられる。

謝辞

この報告をまとめるにあたり、名古屋文理大学短期大学部助教の市原俊氏にはタカチホヘビ確認地点図を作成いただいた。豊田市史編さん室の西部めぐみ氏には各自治体の市町村史の収集に御協力いただいた。愛知学泉大学教授の矢部隆氏および名古屋市環境局生物多様性専門員の野呂達哉氏には名古屋市のタカチホヘビの情報について御教示いただいた。以上の方々にこの場を借りてお礼申し上げる。

引用文献

岐阜市自然共生部自然環境課. 2015. 岐阜市の注目すべき生きものたち 岐阜市版レッドリスト・ブルーリスト 2015. 岐阜市, 岐阜. 228pp.

鳳来町教育委員会. 2005. 鳳来町誌 鳳来寺山編. 愛知県南設楽郡鳳来町, 鳳来. 385pp.

稲武町教育委員会. 1996. 稲武町史－自然－本文編. 稲武町, 稲武. 528pp.

可児市. 2007. 可児市史 第4巻 自然編. 可児市, 可児. 395pp.

加藤貞亨. 2014. 新城市の自然誌－昆虫・動物編－. 鳳来寺山自然科学博物館, 新城. 335pp.

幸田町史編纂委員会. 1974. 幸田町史. 愛知県幸田町, 幸

田. 915pp.

三重県環境森林部自然環境室. 2006. 三重県レッドデータブック 2005動物. 三重県環境保全事業団, 津. 498pp.

三重県農林水産部みどり共生推進課. 2015. 三重県レッドデータブック 2015－三重県の絶滅のおそれのある野生生物－. 三重県農林水産部みどり共生推進課, 津. 757pp.

瑞浪市野生生物研究会. 2008. 瑞浪市の生きものたち－瑞浪市生物調査報告書－. 瑞浪市教育委員会, 瑞浪. 297pp.

長久手町史編さん委員会. 2003a. 長久手町史 本文編. 長久手町役場, 長久手. 768pp.

長久手町史編さん委員会. 2003b. 長久手町史 資料編二 自然. 長久手町役場, 長久手. 492pp.

名古屋市動植物実態調査検討会（監）. 2004. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2004－動物編－. 名古屋市環境局環境都市推進部環境影響評価室, 名古屋. 368pp.

名古屋市動植物実態調査検討会（監）. 2010. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2010－2004年版補遺－. 名古屋市環境局環境都市推進部生物多様性企画室, 名古屋. 316pp.

名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課. 2015. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2015－. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋. 504pp.

日進町誌編纂委員会. 1983. 愛知県日進町誌 本文編. 日進町, 日進. 767pp.

日進市史編集委員会. 2015a. 日進市史 自然編. 日進市, 日進. 503pp.

日進市史編集委員会. 2015b. 日進市史 自然編 目録. 日進市, 日進. 262pp.

小原村誌編集委員会. 1977. 復刻版 小原村誌. 小原村教育委員会, 小原. 596pp.

大畑孝二. 2009. 豊田の生きものたち－生物多様性を知る－. 豊田市環境部環境政策課, 豊田. 247pp.

岡崎市. 2014. 岡崎市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックおかげ2014. 岡崎市, 岡崎. 362pp.

佐藤正孝・安藤 尚. 1984. 愛知の動物. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋. 325pp.

- 関慎太郎. 2016. 野外観察のための日本産爬虫類図鑑. 緑書房, 東京. 206pp.
- 下山村. 2005. 下山村史 資料編 I (自然). 下山村, 下山. 768pp.
- 新編岡崎市史編集委員会. 1985. 新編岡崎市史 自然14. 新編岡崎市史編さん委員会, 岡崎. 1218pp.
- 設楽の自然調査会. 1996. 設楽町誌『自然編』『本文編』. 北設楽郡設楽町, 設楽. 694pp.
- 東栄町誌編集委員会. 1996. 東栄町誌「自然・民俗・通史編」. 北設楽郡東栄町, 東栄. 1462pp.
- 豊田市教育委員会豊田市史編さん専門委員会. 1978. 豊田市史 六卷(資料) 自然 原始 古代 中世. 豊田市, 豊田. 860pp.
- 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関慎太郎. 2002. 決定版 日本の両生爬虫類. 平凡社, 東京. 335pp.
- 矢部 隆・野呂達哉・間野隆裕. 2010. 矢作川河畔林の両生類と爬虫類. 矢作川研究, (14): 35-38.
- 安井謙介・浅香智也. 2011. 愛知県豊川市で採集されたタカチホヘビ及びシロマダラ. 豊橋市自然史博物館研報, (21): 27-29.



図2. 愛知県名古屋市守山区大森八龍（小幡緑地公園）



図3. 愛知県春日井市西尾町（弥勒山）



図4. 愛知県長久手市前熊一ノ井

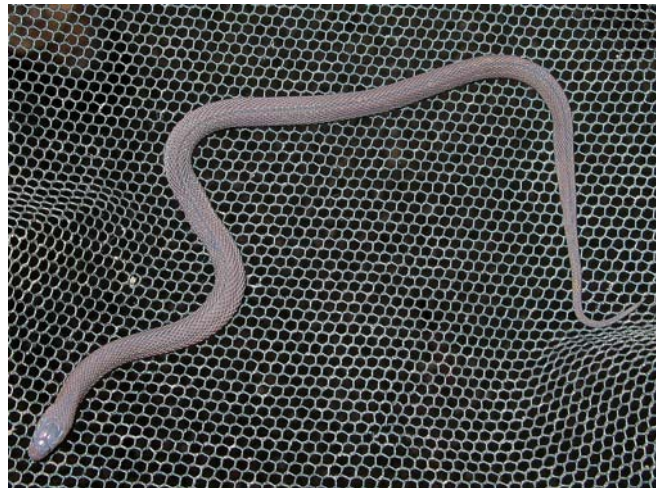


図5. 愛知県豊田市藤岡飯野町辻戸



図6. 愛知県岡崎市細光町



図7. 愛知県額田郡幸田町深溝



図8. 愛知県豊川市千両町早稲田



図9. 愛知県豊橋市石巻町金田（石巻山）



図10. 愛知県北設楽郡設楽町清崎



図11. 愛知県新城市門谷（鳳来寺山）



図12. 愛知県北設楽郡東栄町足込



図13. 岐阜県揖斐郡揖斐川町春日川合



図14. 岐阜県山県市神崎



図15. 岐阜県岐阜市日野西



図16. 岐阜県郡上市白鳥町向小駄良



図17. 岐阜県関市下有知



図18. 岐阜県可児市久々利下入会



図19. 岐阜県多治見市甘原町



図20. 岐阜県下呂市馬瀬川上



図21. 岐阜県加茂郡八百津町八百津



図22. 岐阜県中津川市坂下



図23. 三重県いなべ市北勢町別名（藤原岳）



図24. 三重県四日市市黒田町



図25. 三重県伊賀市長田



図26. 三重県津市片田田中町



図27. 三重県度会郡大紀町阿曾（網掛山）



図28. 三重県北牟婁郡紀北町海山区船津



図29. 三重県熊野市五郷町寺谷